

授業科目名	初級簿記		
担当者名	末益弘幸(実務家教員) *全14回授業を担当		
開講年度学期	2018年度 後期	開講キャンパス	目白キャンパス
単位数	2	開講期・授業区分	週間授業
授業の概要	今日、簿記を含む会計の知識は、社会の各方面においてますます重要になってきています。実際、簿記の技術や知識を利用せずに企業を運営することは不可能です。本講座では、複式簿記の初歩から始め、その全体的な構造を理解できるよう、段階的な学習を行います。		
授業の到達目標及びテーマ	本講座では、年3回(2月下旬、6月中旬、11月中旬)実施される日商簿記検定試験3級に合格出来る学力を習得することを目指しています。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簿記の基本概念、勘定科目、帳簿(複式簿記の原理と仕訳帳・総勘定元帳の関係を学習する)</li> <li>2. 決算手続き (決算整理の必要性、試算表→精算表→B/S、P/Lの流れを理解する)</li> <li>3. 現金・預金① (通貨代用証券、現金過不足、小口現金の処理について学習する)</li> <li>4. 現金・預金② (小切手の知識、当座借越、当座預金出納帳について理解する)</li> <li>5. 商品売買(売上、仕入)①(分記法と三分法による商品売買に関する仕訳処理の違いを把握する)</li> <li>6. 商品売買(売上、仕入)② (売上帳、仕入帳、商品有高帳の内容及び期末商品の評価法を学習する)</li> <li>7. 商品売買(売掛金・買掛金、売上原価)① (人名勘定の利用と得意先・仕入先元帳と総勘定元帳の関係を理解する)</li> <li>8. 商品売買(売掛金・買掛金、売上原価)② (売上原価の算定方法と売上原価に関する決算整理仕訳を理解する)</li> <li>9. その他の債権・債務 (未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、商品券を学習する)</li> <li>10. 受取手形、支払手形①(手形の知識、約束手形と為替手形の違い、手形の裏書・割引を理解する)</li> <li>11. 受取手形、支払手形②(受取手形記入帳・支払手形記入帳、金融手形の内容を把握する)</li> <li>12. 貸倒れ、有価証券(貸倒損失・貸倒引当金の処理、有価証券の取得・売却の処理を学習する)</li> <li>13. 固定資産 (固定資産の取得・売却の処理、減価償却の方法について理解する)</li> <li>14. 純資産・税金、費用・収益 (資本、法人税・住民税・事業税の処理、費用・収益の決算整理を学習する)</li> </ol>		
成績評価の方法	定期試験		
使用テキスト	「段階式 日商簿記 3級商業簿記 [第14版] (加古宜士・穂山幹夫)」税務経理協会		
参考書(参考資料等)	なし		
その他 (受講生への要望など)	本講座は、「企業会計入門」を履修済みであることを前提に講義します。また、「企業会計入門」に引き続き、「初級簿記」を受講することにより、会社で行われている財務会計と管理会計の両分野の知識を効率的に習得することが可能です。		